

とっとり森林緊急通報カードの運用について

・・・迅速・的確な通報と救助のために・・・

鳥取県

1 カードのねらい

オーストリアのレスキューチェーンを参考に、迅速・的確に119番通報し救助隊に少しでも早く山奥の被災現場へ来てもらうため、あらかじめ通報内容を記入しておくカードを考案した。

2 これまでの被災現場からの119通報の問題点

■現場から事務所経由で119通報したために、救助が遅れる。

- ・消防からの質問に事務所職員が答えられない。
- ・事務所職員などが現場へ電話をかけ直す時間が救助を遅らせた。

■事前に救急車との合流場所を決めていないため、救助が遅れる。

- ・山の事故では、救急車は案内人と合流することが基本だが、事故時に合流場所を聞かれても、すぐに良い合流場所が思いつかない。

3 運用のポイント

■消防への通報内容をカードに記入し、現地スタッフ全員がカード情報を共有する。

- ・カード記載例を参考に、あらかじめカードを作成する。

■現場の携帯電話通話可能箇所を確認しておく。

■消防には、質問に答えられる者（被災現場にいる者）が119通報する。

○ 緊急連絡網を作る場合は「被災現場→119」

× 「被災現場→事務所→119」事務所経由で通報すれば救助が遅れる

■携帯電話のGPS機能は「ON」にする。

- ・消防に自動的に位置情報が伝わる。
- ・よって、通報位置と被災位置が異なる場合は、その旨119に伝えること。

■衛星電話からは消防局の外線番号に電話し、119へ転送してもらう。

（衛星電話からは、119や110にはつながらない）

■救急車との合流場所をあらかじめ決めておく。

- ・合流場所は、救急車が一般的に使用するゼンリン住宅地図を基に説明する。
- ・救急車は砂利悪路走行が不可なので、県道、町道などの、舗装道路でわかりやすい場所を合流場所に選んでおく。
- ・救急車の道案内は軽トラがベスト。出来れば2台あれば、機材や被災者搬送に使える。

■被災者を動かせる状況ならできる限り搬送し、救急車との合流が少しでも早くなるよう努力する。

■被災者の止血の手遅れは命に直結するのでタオル等で必ず行う。応急セットは現場に常備。

■ヘリコプター救助の場合は、プロペラの音が聞こえたら、被災現場でタオルや発煙筒を振って、位置を知らせる。

4 運用開始 平成27年9月～

安全対策に終わりはありません。森林緊急通報カードの必要性をよく考えて工夫を重ね、より良い安全対策に繋げていきましょう。

《問合せ先》〒680-8570 鳥取市東町一丁目220

鳥取県農林水産部森林・林業振興局林政企画課 電話 0857-26-7300